

■しずだい産学連携メールマガジンVol. 36

2010年12月21日発行 【毎月第3火曜日】

⇒静大産学連携広報より、お知らせやイベント情報をお届けします。
<http://www.cjr.shizuoka.ac.jp/>からもご覧いただけます。

★今回の“静大ラボ紹介”は、二又裕之先生です。

◆◆◆ 目次 ◆◆◆

1. 「産学マッチング会in浜松」を開催します
2. 「産学官マッチング会in豊橋」の開催予告
3. 「これからの〈まち〉の姿を考える-工学&情報学の視点から」案内

※問合先のアドレスは、スパムメール防止のため表記を一部変更しています。メール送信の際は○欄に@を入れてください。

-
1. 「産学官マッチング会in浜松」を開催します
～地域産業界の皆様との技術交流を促進し、
大学等の研究成果を普及する場を目指して～

日時 2011年1月25日（火）13:30～16:30

会場 アクトシティ浜松コンgressセンター5階会議室

主催団体 浜松・東三河地域「光・電子技術イノベーション創出拠点」
東海イノベーションネットワーク
JSTイノベーションサテライト静岡

発表者と発表シーズ応用例

1. 愛知工科大学 工学部機械システム工学科 山本照美
動的強度試験装置と数値解析用材料モデル。
①検力ブロック式高速材料試験機による各種機械材料の引張強度と伸び特性試験。
②検力ブロック式衝撃座屈試験装置による各種部材の衝撃座屈や耐衝撃特性試験。
③衝突解析などの数値解析用材料モデルの開発研究。
2. 静岡大学 工学部機械工学科 酒井克彦
リベットやねじなどの機械的締結材や、ロウ材や接着剤によらない異種金属材料のレーザ接合。
チタンなどの高融点材料の高速レーザ接合。
3. 静岡大学 工学部機械工学科 岩田太
ナノスケールの表面計測・加工。
精密部品、精密回路、光学部材の検査や補修。
4. 静岡大学 工学部機械工学科 大岩孝彰
ポータブルな機器の空気軸受、極低摩擦が必要な機器・クリーンな環境が必要な機器の軸受。
高速・高精度な位置決め装置。
変位計測センサ。
5. 静岡県立大学 環境科学研究所 坂口真人
化粧品保湿剤。食品添加剤。樹脂充填剤。
セルロース界面活性剤。DDS。
6. 豊橋技術科学大学 環境・生命工学系 大門裕之
プラスチックのリサイクル。
農業系(バイオマス系)廃棄物の処理・リサイクル。
混合廃棄物のリサイクル。液体飼料、堆肥化、バイオガス生産。
7. 沼津高等専門学校 物質工学科 蓮實文彦

食品排水等から有用成分の回収。食品残渣の有効活用。回収成分の有効利用。

上記のためのプラント設計・製造。

再資源化ではないが、微生物を使った環境浄化など。

参加費 無料

申込/詳細 <http://shizuoka-jst-satellite.jp/matching2301/>

問合せ JSTイノベーションサテライト静岡 TEL 053-412-2511

E-mail shizuoka@shizuoka-jst-satellite.jp

2. 「産学官マッチング会in豊橋」の開催予告

日時 2011年1月28日(金) 13:30~〔予定〕

会場 豊橋商工会議所

※詳細は決定次第ホームページ<<http://www.tut.ac.jp/>>に掲載します

3. 「これからの〈まち〉の姿を考える-工学&情報学の視点から」案内

◆静岡大学・中日新聞連携講座

【第3回】「ガバナンス(情報共有と合意形成)からみた平成の市町村合併」

日時 2011年1月8日(土) 14:00~16:00

講師 西原 純(静岡大学情報学部教授)

【第4回】「経営情報学からモノづくりのまち・浜松を考える」

日時 2011年2月12日(土) 14:00~16:00

講師 田中 宏和(静岡大学情報学部教授)

【第5回】「東海地震について考えるための防災ゲーム」

日時 2011年3月5日(土) 14:00~16:00

講師 前田 恭伸(静岡大学工学部准教授)

会場 TKP浜松カンファレンスステーション会議室2
(浜松駅ビル「MAY ONE」4階)

参加費 無料(先着順)

申込方法 FAX、メール、ハガキのいずれかでお申込みください。

詳細 <http://www.lc.shizuoka.ac.jp/event00046.html>

問合せ 静岡大学生涯学習教育研究センター

TEL 054-238-4817 FAX 054-238-4817

E-mail LLC@ipc.shizuoka.ac.jp

《 静大ラボ紹介 -21- 》

工学部物質工学科 二又裕之准教授

<http://cheme.eng.shizuoka.ac.jp/~futamatalab/>

平成22年版環境・循環型社会・生物多様性白書によると、日本では食品廃棄物が年間1,948万トン排出され、約70%は再利用されずに焼却・埋立処分されています。

二又研究室では、自然環境中の微生物を用いて食品廃棄物を分解し、直接電気エネルギーに変換する『微生物燃料電池』の開発に取り組んでいます。微生物燃料電池の実用化に向けて、より高出力発電型の微生物燃料電池の構築とシステム内の微生物群集に関する研究を行っています。微生物の力で食品廃棄物から電気生産という一石二鳥の本技術は、次世代クリーンエネルギー生産技術であり、循環型社会への貢献が期待されます。

《 みんなのコラム -35- 》

『技術は世につれ、世は技術につれ』

「歌は世につれ、世は歌につれ」ではありませんが、技術もまた然りであり、世の中の変化に応じて技術は変化し、技術の変化によって世の中も変わっていきます。例えば、人々のニーズによって自動車が発達し、自動車の普及によってライフスタイルが変わり、そして自動車の増加に伴う環境エネルギー問題に対処するためにまた新たな技術が生まれてきます。

ある技術のブレークスルーが求められる時、その技術の原点に立ち返って歴史に学ぶと共に、関連分野の先進技術を積極的に取り入れると対処できる場合が多々あります。例えば、自動車技術では最新の電池やパワーエレクトロニクスを取り入れた電気自動車の復権台頭、冷凍空調技術では昔使われていた二酸化炭素や炭化水素といった自然物質系冷媒の復活などです。

個々の技術の意義や価値は世の中に対して相対的であり、世の中が変われば技術の評価も変わります。世の中の動きと技術の動向をウォッチしながら、新技術や新産業の創出を目指したいものです。

(記：理事(社会・産学連携担当)、副学長 柳澤正)

《 編集後記 》

これまで“大学が選んだ研究成果の発表を産業界の方に聞いていただく”形が多かった産学官のセッションを、新しいアプローチ“産業界の方のニーズに合わせた研究成果を大学が発表する”形で試みる企画『産学官マッチング会』が、来年1月、浜松と豊橋で開催されます。

産業界から望まれている「学」発で「技術課題の解決を意識したアプローチ」を個別ではなく複数で行う今回の企画では、まず、企業の方の声を集約するアンケートが必要でした。静岡大学をはじめ、地域イノベーションを目指す大学、商工会議所、公設試験場、地方自治体、金融機関、支援機関が知恵を結集してアンケートの作成・収集に取り組んだ結果、150件以上の回答が産業界から寄せられました。

中には、切実な課題や問題に関する記載もあり、その緊急性を感じたメンバーは個別相談対応などを早速開始しました。

今回の試みは、マッチングの機会を設けるという以上に、関係者がアンケートという生の声で課題を認識できたという意義が大きいのもかもしれません。

* — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * —

◆メールマガジンに関するお問合せ・配信先変更・担当者変更・
配信中止のご連絡は、sangakukoho50cjr.shizuoka.ac.jp まで
お願いします。(↑送付の際は〇欄に@を入れてください。)

◆本メールマガジンの商業用の転載はお断りいたします。

発 | 行 | 者 |

国立大学法人静岡大学イノベーション共同研究センター (IJRC)
編集：原典子
編集責任者：木村雅和
〒432-8561 静岡県浜松市中区城北3-5-1
TEL 053-478-1414

Vol. 36_10. 12. 21

URL <http://www.cjr.shizuoka.ac.jp/>

* — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * —
Copyright(c) 2008-2010 Innovation and Joint Research Center,
Shizuoka University. All rights reserved